

# 高の原中央病院 DIニュース 2018年10月号

## 医療機関でのインフルエンザアウトブレイク対策 ～手指衛生～

インフルエンザは、わが国で最大の市中感染症の一つです。入院患者および社会福祉施設の入所者がインフルエンザに罹患すると、施設内で感染が拡大するリスクがあることから、医療機関では特に適切なインフルエンザ感染拡大への対策が必要です。

インフルエンザウィルスは、咳やくしゃみなどによって飛び散り、口や鼻などの粘膜に直接触れて感染する病原体であり、さらにウィルスが付着したドアノブや家具などを触れることによっても感染が拡大することから、手指衛生は重要な感染対策となります。

インフルエンザウィルスは、エンベロープを持つ中間型サイズのウィルスで、消毒用エタノールや次亜塩素酸ナトリウム、ヨウ素系など、中水準以上の消毒剤が有効です。「医療における手指衛生についてのガイドライン（世界保健機関（WHO：World Health Organization）、2009年）」では、75%イソプロパノールまたは80%エタノール製剤の使用を推奨しています。但し、手指が血液あるいはその他の体液で目に見えて汚れている場合などでは、石鹸と流水にて手洗いをしなければなりません。また、手荒れ対策にはアルコールの方が有効であるとしています。石鹸と流水で手洗いした後アルコールで手指消毒する、逆にアルコールで手指消毒した後手洗いすることは、手荒れの原因になるので避けてください。参考までに当院採用の消毒剤について、その使用対象と適用微生物一覧を表1. に示します。消毒剤全般については、製剤名、濃度など内容が多岐に渡るため、成書を参考にしてください。

手指衛生の励行により、家庭内のインフルエンザ二次感染が58%減少する、インフルエンザ感染リスクが減少（5～10回/日：OR 0.65、95%CI 0.52～0.84、>10回/日：OR 0.59、95%CI 0.44～0.79）するといった報告もあります。手指衛生は、インフルエンザの感染拡大防止に最も有効な対策の一つであると捉え、施設内及び家庭内の環境整備に努めましょう。

表1. 当院消毒剤の使用対象と適用微生物一覧

微生物													使用対象											禁忌												
ウイルス			真菌			細菌							皮膚						粘膜																	
HIV	HBV/HCV	小型	中間型	酵母	糸状菌	芽胞菌	結核菌	梅毒トレポネーマ	緑膿菌	MRSA	栄養型細菌	分類	消毒剤成分	商品名	手指・皮膚・一般消毒	創傷部位	手術部位	熱傷部位	感染部位	外陰部・外性器及びその周囲	創傷部位	手術部位	膀胱・尿道・膣		眼(結膜囊)	耳・鼻	口腔・歯科領域・含嗽	医療器具	室内・家具・物品	排泄物						
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	高水準	アルデヒド系	グルタラル	サイデックスプラス28*													0.5%、2%、3%	0.5%、2%		人体					
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			フタラル	ディスオーバ*														0.55%			人体				
●	●	●	●	●	●	△	▲	●	●	●	●	中水準	塩素系	次亜塩素酸ナトリウム	ミルクボン1%*	0.01~0.05%	0.005~0.01%							0.005~0.01%							0.02~0.05% HBV:0.1~0.5% (血液など汚染時1%)	0.02~0.05% HBV:0.1~0.5% (血液など汚染時1%)	0.1~1%			
●	▲	●	●	●	×	●	●	●	●	●	ヨウ素					ポビドンヨード	ポビラール消毒液10%	10%液、ゲル	10%液	10%液、ゲル	10%液	10%液、ゲル	10%液													
●	▲	●	●	●	×	●	●	●	●	●				産婦人科用イソジンクリーム								原液				膣:原液							ヨード過敏症、 甲状腺機能異常			
●	▲	●	●	●	×	●	●	●	●	●				ポビドンヨード(含漱)	ポビドンヨードガーグル7%														15~30倍希釈			ヨード過敏症				
●	▲	●	●	●	×	●	●	●	●	●	アルコール		添加剤	イソプロパノール	消毒用エタノール	消毒用エタノールα「カネイチ」	原液	原液														原液			創傷皮膚及び粘膜	
●	▲	●	●	●	×	●	●	●	●	●						ビグアナイド系	クロルヘキシジングルコン酸塩	マスキンR・エタノール液(0.5%+消毒用エタノール)													原液			①クロルヘキシジン過敏症 ②脳、脊髄、耳③膣、膀胱、口腔等の粘膜④損傷皮膚及び粘膜⑤眼		
●	▲	●	●	●	×	●	●	●	●	●						ヨウ素系	ポビドンヨード+エタノール	ポビドンフィールド(10%+消毒用エタノール)			10%原液														損傷・創傷皮膚	
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	酸化剤	過酸化水素	オキシドール			原液、2~3倍希釈												原液、2~10倍希釈	原液、2倍希釈、10倍希釈						
×	×	×	×	●	×	×	×	●	①	①	●				ビグアナイド系	クロルヘキシジングルコン酸塩	0.05%マスキン水	0.1~0.5%	0.05%	0.1~0.5%									0.05%以下	0.1~0.5%	0.05%			①クロルヘキシジン過敏症 ②脳、脊髄、耳③膣、膀胱、口腔等の粘膜④眼(20%液除く)		
×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	①	①	●		クロルヘキシジングルコン酸塩スクラブ			マスキンスクラブ4%*	原液														クロルヘキシジン過敏症				
×	×	×	×	●	×	×	×	●	①	①	●	陽イオン界面活性剤	ベンザルコニウム塩化物	0.025%オスバン液	0.05~0.1%	0.01~0.025%	0.1~0.2%							0.01~0.025%	0.01~0.025%	0.02~0.05% (膣洗浄)	0.01~0.05%					0.1%	0.05~0.2%			
×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	●	●				チアミトール消毒用液10%																					
×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	●	●			色素系	アクリノール	アクリノール0.1%															0.05~0.2%	0.05~0.1% (含漱)				

●:有効  
▲:有効/効果不十分の両論あり  
△:十分な効果が得られない場合あり  
×:ほとんど無効  
①:一部抵抗性を示す菌株ありの報告

\*薬価基準適用外医薬品